

会議議事録

				記録者	仲村 堯之
供覧	部長	課長	課長補佐	主査・係長	G員
件名	第4回龍ヶ崎市最上位計画策定審議会				
年月日	令和4年6月6日(月)				
時間	午前10時～正午				
場所	龍ヶ崎市役所 附属棟1階 第一会議室				
出席者	最上位計画策定審議会委員 鈴木 麻里子 委員、田中 治彦 委員、中村 友則 委員、 渡邊 孝 委員、北川 滋也 委員、池永 直子 委員、披田 信一郎 委員、  萩原市長 事務局 木村市長公室長、岡野企画課長、小室企画課長補佐、鈴木副主幹、記録者				
欠席者	郡司 悦子 委員、櫻井 惇 委員、武藤 成一 委員、石引 公子 委員 鈴木 麻美 委員、谷口 佳菜子 委員				
情報公開	<input type="checkbox"/> 公開	非公開(一部非公開を含む)とする理由		(龍ヶ崎市情報公開条例第 条 号該当)	
	<input type="checkbox"/> 部分公開 <input type="checkbox"/> 非公開				
発言者	内容				
	開会 市長あいさつ 会長あいさつ 議事録署名人の指名(鈴木会長、渡邊委員、披田委員)				
鈴木会長	それでは議題に入りたいと思います。「次期最上位計画に関する将来ビジョン及び基本計画素案作成の考え方について」でございます。 こちらは章ごとにご説明いただきたいと思います。 それでは序章～計画の策定にあたって～について事務局から説明をお願いいたします。				
事務局	≪資料に基づき説明≫				
鈴木会長	ただいま事務局から序章～計画の策定にあたって～のご説明がございましたが、これについてご質問があればお願いいたします。				

<p><b>北川委員</b></p>	<p>2点気が付いたところがあります。</p> <p>社会情勢の部分に含まれるかどうかというのはありますが、新しいテクノロジーの進展がかなり進んでいて、特に移動の面では自動運転に関する話が大きく、空飛ぶ車が2025年の大阪万博には運行されるという話もあります。</p> <p>最近の新聞では、ある事業者がこうした事業に乗り出していくという話が出ていました。またドローンでの配送といった動きも出てきています。そう考えるとこの移動というのは、地方の公共交通の部分で言えることですが、空飛ぶ車、ドローンの配送などが一つの解決策になってくると思います。これはカーボンニュートラルの観点にも当てはまることかと思えます。今どのような取り組みをしているかどうかは別として、この先30年の中で、必ず出てくるような話だと思うので、どこかで触れられないかというのが1点。</p> <p>そしてもう1点。新型コロナウイルスの感染症のところで、ほぼ終息をしつつあるのですが、また新たに新しいウィルスが出てきているという情報があります。</p> <p>また最近では、ウクライナに対するロシアの侵攻により、食糧が入ってこない、物価も高騰するといった世界的な問題が出てきています。これは気候変動などと同様、グローバルリスクマネジメントに関わることかと思えます。そういったパンデミック、地域紛争、気候変動、グローバルリスクという観点から、新型コロナウイルス感染症についても、もう少し大きくパンデミックという枠組みにして、それに対して我々はどう何を対応しなきゃいけないか考えると、ライフラインの確保、医療体制の確保、そのようなところに繋がってくるのではと思います。</p>
<p><b>鈴木会長</b></p>	<p>ありがとうございます。事務局からお願いいたします。</p>
<p><b>事務局</b></p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>デジタルトランスフォーメーションも公共交通も含めて新たな技術の革新が進んでいますというのが、8ページの社会のデジタル化の進展のところに書いてありますが、自動運転については、実際にAIオンデマンドバスなどの検討も進めているところではありますので、新たな技術の活用によって、公共交通の分野などで利便性の向上が期待できる、そのような書き方もしていますが、その辺をより分かりやすく工夫していきたいと思えます。</p> <p>また最後の新型コロナウイルス感染症の影響についてはすでに記載をしておりますが、最近の新しい動きとして、ウクライナ情勢に関する話があり、今その影響で資材が入ってこないとか、物価の高騰という動きもありますので、本市を取り巻く社会情勢の変化の部分に追記していきたいと思えます。</p>
<p><b>鈴木会長</b></p>	<p>ありがとうございます。その他ございますでしょうか。</p> <p>披田委員お願いします。</p>
<p><b>披田委員</b></p>	<p>今、北川委員からのご提言がありましたが、7つ目の新型コロナウイルス感染症の影響に関しては、グローバルリスク全般を考えるという観点は理解できるのですが、ウクライナ情勢にどう取り組むのかというのは適切でない部分もあるのではないかと思います。ただ少なくとも、原案に即して言えば、今後もいろんな感染症をはじめとした様々な想定外のことがあり、広い意味でのパンデミック的なリスクについてという形のほうが、今回の新型コロナウイルスの影響が残るという限定的な書き方よりは適切かという点で、北川委員の意見について賛同したいと思います。</p> <p>また、何か新しいものを活用することによって、それによって問題が解決してしまうかのような表現も見えます。そういったものが将来のイメージであると同時に、最終的な政策にも繋がっていくと話にもなると思えますので、書きぶりの話かもしれませんが、いろいろ書いていけばいいということでもないのかなと感じています。</p> <p>それから3ページの本計画の位置付けについて、他の計画との関連の中で、まち・ひと・しごと</p>

	<p>と創生総合戦略は包括するというのは理解しました。それはそれでいいと思いますし、第二次戦略プランの場合も、事実上内容が重複していたので、全く別のものを書かされるのではないものの、別に作った形にしろと言われたので、一応作ったことにはなっていると思います。</p> <p>あの時は国の方針に基づいて作らざるを得なかったという経緯があったかと思いますが、法律その他の根拠のところはどうなっているのかという確かめをしたいし、人口ビジョンについても、別に作っていくということになっていて、これは人口想定に溶け込んでいて一体的になっているものですが、地方創生というキーワードが残っているにしても、よくわかりません。</p> <p>そうした点について教えてください。</p>
事務局	<p>まち・ひと・しごと創生総合戦略は、本市では第1期は最上位計画とは別に作らせていただきました。それはまち・ひと・しごと創生法という法律ができて、それに基づいて地方版の総合戦略を作りなさいというのがあるって、1期目のまち・ひと・しごと創生総合戦略は最上位計画とは違う形で作ったという経緯があります。</p> <p>そのあと国で第2期のまち・ひと・しごと創生総合戦略というのが示されまして、本来であればそこに合わせて市の総合戦略も新しいものに作り変えるタイミングでもありましたが、本市で最上位計画を策定するタイミングが控えていましたので、まち・ひと・しごと創生総合戦略そのものを最上位計画に包含し、一緒に作りこむという考え方で作っております。</p> <p>その辺については国からの通知等でも、総合計画・最上位計画と一緒に作ってもいいですよという案内があり、最上位計画の方向性などもほぼ同じものということで、龍ヶ崎市では最上位計画に包含して作るということにしております。</p> <p>具体的にどうするかという点については、他市町村の事例などを見ますと、基本計画の別枠でこの部分がまち・ひと・しごとの部分ですという作り方もされているところもありますし、その区分けなく、最上位計画・総合計画そのものをまち・ひと・しごと総合戦略と示している作り方もありますので、当市でも、この部分がまち・ひと・しごとに関する内容で、まち・ひと・しごと創生法に基づいて国の支援などを受けながら重点的に取り組む部分であるというのをわかりやすく示していきたいと思っております。</p>
披田委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>まち・ひと・しごと創生法は時限立法でもなく、なくしたというわけでもないの、しかるべき扱いをしておかなければいけない。そして、これと一体的だという宣言をすれば認められるということになっています。</p> <p>従前の総合計画策定の根拠が昭和40年代に作られた地方自治法に規定されていたのが、法的に必須ではなく自由に作れるようになりました。ただし実際は行政計画の分野別計画の全体を集大成するものなので、大体の自治体は策定しているものの、作らなくてもいいものですよ。にもかかわらずこのまち・ひと・しごと創生という国の考えに基づいて、それらしいものを作らなければいけない仕組みになっているのだという理解でいます。</p>
事務局	<p>法律上、市町村における総合計画の策定は任意でございます。ただ国の制度としてまち・ひと・しごとを地方版まち・ひと・しごと総合戦略に基づいて何か事業を行っていくというときには、補助制度などの活用も可能となります。全国ほとんどの市町村で作っていて、龍ヶ崎も様々な補助制度に基づいて有効かつ効率的に進めたい事業も幾つか提案しておりますので、内包した計画を策定し、有効活用していくというスタンスでやっています。</p>
披田委員	<p>確認ですが、国の方は法律的な義務として策定しろとは言っていないものの、様々な補助などを活用する時には、その計画があるものを前提に出さなければならないから内包していて、龍ヶ崎市では独自に策定を進めている最上位計画、それがそのものですよと逆に宣言することによって、国に対して申請を出すことができることになるということですね。分かりました。</p>

鈴木会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>本日おそらく次の一章が主な論点になると思いますので、恐れ入りますが序章については一旦ここで切らせていただいて、次の将来ビジョンについて入りたいと思います。</p> <p>それでは事務局から説明お願いいたします。</p>
事務局	<p>《資料に基づき説明》</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま事務局よりご説明ありましたが、これについてご質問お願いいたします。</p> <p>田中委員、お願いいたします。</p>
田中委員	<p>施策(1)子どもが健やかに育ち～というところについて、(3)に若者世代の活躍支援というのがありますが、この4月1日から18歳成人になっています。その意味は幾つかあって、一つはすでにある18歳選挙権で政治参画を促すということと、それから18歳成人で契約ができるので、経済活動も活性化するというので、ぜひこれは序章にも入れて欲しいと思いますが、やはり若者の活躍という観点から18歳成人に関する内容をぜひ入れていただきたいと思います。</p> <p>その一方で、具体的施策の中で成人式をやめて20歳を祝う会にするとなっています。これは20歳を祝う理由もない中で、時代に逆行する内容だと感じます。元々成人年齢が20歳だったから、成人式を20歳でやっていたので。成人年齢が18歳になったわけだから18歳にしていこうということだと思いますし、成人式というのは、成人になったことの自覚を促すという側面と成人になったことを祝うという二つの側面があると思います。</p> <p>それならば、七五三とか、還暦祝いと同じで各家庭でやればよいことなので、行政が公費を使ってやるからには成人式という名前を外してはいけない。なぜ成人式という名前を廃止するのは疑問に思います。</p> <p>次に施策(3)健康に暮らせるまちづくりのところ、多様な居場所・活動の場づくりを強調されていました。大変大事なことなのですが、孤独や孤立というのは非常に大きな問題になっています。</p> <p>ある調査で、私たちのような定年世代が孤独なのかと思っていたのですが、30代・40代が一番孤独感を感じているという結果が出ていて、この辺をどう施策に反映させられるかは分かりませんが、非常に気になる場所ですので、30代・40代の人たちが活躍できるとか、或いは連帯感を持っているとか、そうしたことを考えていかなければいけないと思います。</p> <p>次に施策(4)多様性、生きがいを持って作らせるまちづくりのところ、人権尊重や多様性をはじめ、性別・国籍・文化・価値感に関係なくということですが、これは一般的にダイバーシティということではなく具体的にジェンダーの問題、女性が活躍するということをきっちり位置付けていく必要があるだろうと思います。</p> <p>もう一つ、先ほどの人口とも関係あるのですが、人口推計はこれから厳しい状況になります。目標値に達しなかったとすれば、それを補うのは外国人しかないと考えますので、やはりその外国人の人権とか外国人にどう対応するかということについて、やはりジェンダーもそうですが、きっちり頭出ししておかないと、いざ増えてしまったときにあたふたしてしまいます。その外国人にどう対応するかということをきっちりこのダイバーシティの中に入れておく必要があるかと思っています。</p> <p>次に施策(7)の環境にやさしいというところでカーボンニュートラルがあるのですが、今後、火力発電や原子力発電といったエネルギーが厳しいということで、再生可能エネルギーへという話になるのですが、やはりここでエネルギーの問題も議論しておく必要があるのではないかと思います。</p>

	<p>太陽光発電は、各家庭で発電ができるわけで、ダイナモが1個あれば 4～50 戸の集落であれば発電できてしまいます。これからコミュニティエネルギーとか、各家庭のエネルギーを位置付けていくことが防災に繋がるわけですので、エネルギーをきっちり位置付けたほうがいいのではないかと思います。以上 5 点です。</p>
鈴木会長	<p>はい、ありがとうございます。事務局お願いいたします。</p>
事務局	<p>まず 18 歳成人に関しての位置づけというのは文章的には書いていないので、そちらについては位置付けていきたいと思いますが、成人式に関しては所管のアイデアや考え方の中で出てきている部分になるかと思います。検証の中では、受験シーズン等と重なるため 18 歳の時に開催するというのはなかなか時期的に難しいという話をしていたと記憶しております。位置付けについては検討させていただければと思います。</p> <p>30 代・40 代の孤独の部分について、場づくりというのは福祉の観点から障がい者や高齢者というところをメインに実施してきていますが、当然そういった方だけではなく、全体の中での場づくりや居場所づくりという部分になってきますので、具体的な施策の中で見ていければと考えています。</p> <p>ジェンダーモデルの話については、特出しをしておりますので、そちらについては考えていきたいと思います。外国人の問題に関しましても、新しいことをやりましょうというのは、最初は難しいところがありますが、外国人の方と地域の関わり方は考えながら徐々に形になっていくのかと思います。そういうことが取り組めるように位置付けをしていきたいと思っています。</p> <p>集落での発電に関しては、コミュニティセンター数か所に太陽光発電機を備え付けしているところではありますけれども、日中であればそうした再生エネルギーをその地域の電力を維持することにもなるので、そういったところも踏まえながら、具体の施策の中に、位置付けができるように考えていきたいと思っています。</p>
鈴木会長	<p>池永委員お願いします。</p>
池永委員	<p>施策(5)の安全安心が実感できるまちづくりのところ、コミュニティセンターなどに避難をする場合において、国土強靱化計画などに基づいて、防災・減災対策の推進というのはよくわかるのですが、どれだけ防いでも、どれだけ頑張っても避難したほうがいいという事態は起こると思います。</p> <p>市民の感覚としては、コロナ禍において、もし何かが起こったときに、避難所に行って、ソーシャルディスタンスが取れるのかという問題や、ペットがいる方はどこに避難すればいいのかなど、すごく不安であったと思います。そういったことから、安全・安心な避難所の確保ということを入れていただきたいと思っています。</p>
鈴木会長	<p>事務局お願いします。</p>
事務局	<p>最終的に基本計画を位置付けていく中で、そういったことが考えられるように位置付けをしていきたいと思っています。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。北川委員お願いします。</p>
北川委員	<p>将来に向けた本市のあるべき姿のところですが、みんなで何をやるのかということが抜けているのではないかと思います。みんなで一緒にやりましょう、何か協働してやりましょうというようなことを謳っていると思うのですが、それがこのまちのあるべき未来の姿にあたるのか、イメージの具体性に欠けるのではないかと感じます。</p> <p>一つのアイデアですが、例えば幸福やウェルビーイングというようなことを掲げてまちづくりをしている自治体が出てきています。例えば市民の幸福を作るという一つの目標があれば、そこ</p>

	<p>に働く幸せ、学ぶ幸せ、行動する幸せなど、いくつかのものが連動してくるのかと思います。具体的なイメージが分かるようなものが必要かと思います。</p> <p>施策(1)の子育てですが、合計出生率ということはあまり使いたくないのですが、具体的なものを積み上げていく必要があると思います。今日本で問題になっているのは、家庭内における家事と育児の分担です。例えば積水ハウスグループでは、男性が育休を取るにあたって、子育てに関するシートを渡して、具体的にどのような割合で家事と子育てを分担するのかを記載するという取組を行っております。そのような取組を市役所が率先して実施するのいいと思います。</p> <p>フランス人と結婚した方と話す機会があったのですが、フランスは出生率が上がっています。家事と育児の分担は平等であり、女性が市民活動に参加されたときは男性が面倒を見てくれるとおっしゃっていました。そのような関係づくりに繋がる施策が必要になってくると思います。</p> <p>もう1点ですが、子どもの権利宣言というのをに入れていただきたいと思います。川崎市等先進的な自治体は行っています。例えば、家庭内のパワハラ、学校における教師の体罰やわいせつ行為等がこの宣言で変わる気がします。</p> <p>欧米の子どもたちはわいせつな行為をされたとしたら、あなたは私の人間としての尊厳を認めていますか、リスペクトしていますかという会話が当然のように子どもたちから出てきます。日本では家庭内では親の支配下に、学校では先生の支配下にあるというのがずっと続いていたのですが、近年このような状況が問題となっており、そのような背景がある中で、川崎市は子どもの権利に関する条例を定めています。市として定めることで、子どもたち一人ひとりが理解するということが、そういったことが発言できる子どもたちを育てるという仕組みが作られています。これはとても大きな意味があるかなと思いますので、検討いただきたいと思います。</p> <p>施策(8)の市民と共に育む持続可能なまちづくりにおいて、市民からの情報収集もかなり苦労されているかと思います。市民の政策提言というのはどのようにして具体的にやるのか、まだ試行錯誤の段階であるという印象があります。加古川市にはデシディムという仕組みがあるのですが、行政がオンライン上にテーマをあげて、そこに登録者の市民が政策提言などの様々な意見を書き込めるようにしています。若い世代の登録が多く、今回の計画策定のタイミングでも多くの意見が聞けていたという事例があります。オンライン上で、双方向のプラットフォームのようなものができ上がれば、忙しくて交流会に参加できない市民も意見を述べることで、高校生の意見も取り入れられたりというところがありますので、検討していただきたいなと思います。オープンにいろんな情報を発信し、そこで市民との共有化を図るということも必要になってくるかと思います。</p> <p>また、横浜市では自ら政策提言をするようなグループがありますので、市としてそういったことをモデルとして仕掛けていくということも一つの方法かなと思います。</p> <p>もう1点、まちの元気を生み出す産業と交流のあるまちづくりですが、当市は農業が大きな産業で米作が中心となっており、現在、市や県は畑作に転換する動きがありますが、なかなかうまく進まないことを聞いています。県の施策をそのまま落とし込むのではなく、市独自のインセンティブを入れ込んだほうがいいと思います。空き家対策と同様で、所有者がその気になるようなインセンティブを考えて具体的に動いていかないと、なかなか具体的な動きが生まれません。そういった農業の再生という面も検討いただければと思います。以上です。</p>
<p><b>鈴木会長</b></p>	<p>事務局お願いいたします。</p>
<p><b>事務局</b></p>	<p>まず1点目、本市のあるべき姿の部分ですが、こちらにつきましては様々な案が出てくる中で、言葉として非常にシンプルで、若者にも馴染みやすいのではないかと、またより覚えてもらえるものにしていきたいという思いがありまして、市の若手の職員等の意見も聞いてクリエーショ</p>

	<p>ンという言葉を採用したところです。</p> <p>一方でクリエイションは手法ではないのかという意見、目指していくまちの姿というのが非常にわかりにくい部分があるという意見もありまして、そこでもともと「クリエイション ともに創るまち龍ヶ崎」だったあるべき姿に対して、その意味としてこの右側にあるような、文章を付け加えさせていただきました。</p> <p>龍ヶ崎市の未来を創っていくのは市民一人ひとりのまちを動かそうとする想像力であって、子どもも大人もお互い関わり合いながら、笑顔と幸せが続く、住み続けたいくなるまちを作りたい、ということシンプルにクリエイションという言葉で表現したのですが、まさに北川委員のご意見のように、それによって目指していく姿はウェルビーイングや幸福で、笑顔が続く、幸せが続く、住み続けたいくなるまち、こういうまちをともに作っていききたいという思いを込めているところでもありますので、この部分をもう少しわかりやすく表現していければと思います。</p>
北川委員	<p>説明を付け加えたとのことですが、言葉が長すぎると思います。一言でこういうことだとわかる方がいいのではないかと思います。この言葉を理解しようという市民は誰もいないと思います。</p>
事務局	<p>このクリエイションという言葉一言に込めた思いは先ほど述べたとおりです。そこがなかなか伝わらないというご指摘いただきましたので検討させていただければと思います。</p> <p>その他、いろいろご意見いただきましてありがとうございました。具体的には基本計画の中で考えていくところになるかと思います。</p> <p>子育てのところにつきましては、働き方やワークライフバランスの具体的な取組を書いたほうがいいのかという意見や、子どもの権利については慎重な調整が必要になるかと思いますので、担当の方とも協議していきたいと思っております。</p> <p>市民からの政策提言について、加古川市の事例のご説明をいただいたところですが、市でも出前講座や出前市長室等、市長が地域に出向く取組を考えているところであります。また、ご提案のありましたような、オンラインでの方法も含め、市民からの提言をいただくための方策のあり方等についても具体的に考えていければと思っています。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>中村委員お願いします。</p>
中村委員	<p>7つの施策を挙げただきまして、事業を進めていく方向性などは理解しましたが、政策(8)の(4)効果的なシティプロモーションが中の方に入っています。すべての施策はやはりプロモーションが非常に重要ではないかと思っていて、この中に入ってしまうのは弱いのではないかと思います。この7つの施策の中に、選ばれるまちづくりということを踏まえてしっかりと発信するというのを政策の柱として掲げたほうがいいのかと思っております。</p> <p>全体的に7つの項目を見ていくと、どちらかというと転出するのを防ぐような意味合いの内容が多いのかなと思っています。一方で、住めばいい場所だということを外にプロモーションすることによって選ばれるまちになるのではないかとも思っております。</p> <p>例えば、全部の施策の中に効果的なプロモーションという項目を入れるのも良いと思うのですが、全面的に外部へ発信していくことを多く考えていただければと思っています。</p>
鈴木会長	<p>事務局お願いいたします。</p>
事務局	<p>シティプロモーションの考え方については、先ほど中村委員からもありましたが、市の事業全てに関わる話なので(8)に位置付けています。</p> <p>当初、素案の検討を始めた段階では、先ほどお話がありました産業やにぎわいづくりのところにプロモーションの位置付けがあり、現状の第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プランについてもそう</p>

	<p>したところに位置付けがあるのですが、ここに関わっている人すべての人がプロモーションを意識していかなければならないと思ったため、資料のとおり位置づけを変えたという経緯があります。</p> <p>情報発信をはじめとした、プロモーションの部分で柱を一つ立てるかどうかなどというのは検討したいと思います。</p>
<p><b>鈴木会長</b></p>	<p>披田委員、お願いいたします。</p>
<p><b>披田委員</b></p>	<p>各委員から様々な意見が出て、皆様のご意見はもっともだと感じております。</p> <p>福祉的な部分や、従来の計画の中で不足していた部分も網羅してくれたのは良いのですが、あまり面白くないと感じます。まず将来ビジョンのあるべき姿のところについては、先ほど北川委員がおっしゃったとおりです。これまでの龍ヶ崎の歴代市長の個性なのかもしれませんが、第1期、第2期と「人が元気 まちも元気 自慢したくなるふるさと龍ヶ崎」とあり、その当時の市長によっても、いろんな言葉を連ねていました。しかし今回は、やはり北川委員がおっしゃったように、何をクリエイションするのかということを出さないといけないと感じます。</p> <p>まちづくりの基本姿勢は当然のことを再確認するというでいいと思います。ここで直接触れてはいませんが、龍ヶ崎の場合、まちづくり基本条例を制定しているので、基本姿勢の中でも条例について改めて触れた方がいいのかなと思います。</p> <p>それから、人口の問題は北川委員がおっしゃったように、やはり、7万2,000人という数字の減らし方を抑制していくために、子どもの出生や子育て世代の転入をなんとか増やしていきたいという思いがあって、設定した目標なのかと思います。その点について、目標人口という単に数字として表すだけでなく、こういうことを努力して、これが実現するようにしていくつもりですということも少しも触れるといいと思います。そういったことによってこの7万2,000人という目標に向かって努力していくということがわかるかなという感じがしました。</p> <p>土地利用構想については、多極ネットワーク型のコンパクトシティという方向で、立地適正化計画を別途定めており、計画内で矛盾しているという事ではありませんが、分散化したそれぞれの市街地がコンパクトシティとして完結するのか、それぞれに別々の機能を持たせていくのか、または市役所のように全体の中心部をどうするのかという方針を考えていくべきだと思います。身近な施設は分散しているから別々に作るべきだという議論と、一方でどこかにまとめるしかないという考えとは整理がついていなかったのではないかと思います。</p> <p>それから災害対策の観点からも、一定の地域にまとまって住んでもらいたいという考え方があると思います。その一方で、多極ネットワーク型コンパクトシティの形成を目指しますという記載の部分があまり深掘りされていないのは気になりました。極端に言えば龍ヶ崎は低地と台地がある中で、地震等、様々な災害リスクはありますが、一番可能性が高い水害がある中で、将来的にどこに住めばいいのかという問題についてこの土地利用構想で触れていく必要があると感じました。</p> <p>それから、施策の大綱についてですが、もう少し行数というか文量を増やしたほうがいいのかと思います。</p> <p>それから各委員から具体的に様々な意見が出ていますが、そうしたことを書き込んでいった方がいいのではと思う一方で、前提となる内容だけが書いてあって、もう少し記載を加えてもいいのではと感じます。またそれは今後の基本計画で表現するからということかもしれませんが、計画自体が煮詰まってないからなのか、その理由が良く分かりません。</p> <p>この時期に龍ヶ崎はこんなことを頑張ろうということが色々書いてあっても良くて、例えば田中委員が指摘された地域エネルギーの問題も様々な観点から、現状記載するとすれば、地域エネルギー計画に沿って、公共施設の屋根を使うというような、既に実施しているようなことだけではなく、市全体として地産地消型のエネルギーの問題について踏みこむのはありだと思</p>

	<p>ます。</p> <p>しかし、そうした内容について議論した結果、市民によっても意見が割れたとか、そういう議論のプロセスがまだ煮詰まっていないために、前提となるような事項だけ書いてあるということでしょうか。スケジュールの問題もあるかと思いますが、ここで出た案については、市民を含めてもう少し検討を重ねるとか、市役所の中でも、もう少し練ることによって内容が豊かになるのではないのでしょうか。そしてそれを施策の大綱のところでも、全体の計画がこんなことを頑張ろうとしているんだというイメージが湧くようにするために、もう少し内容を書き込んでもいいのではと思います。最初に言ったように、もう少し面白く出来ないかなと思いますし、つまらないという印象を持っています。</p> <p>説明がなかったのですが、各地域で市長との懇談会をやる際に、完成度を上げたものを出すのでしょうか。私はこの程度のもを出して、市民からの意見をもらった方がいいと思いますし、綺麗な状態で市民に出されても、意見を言いにくくなってしまうということもあると思います。そこについてはどう考えているかお伺いしたいと思います。</p>
<b>鈴木会長</b>	事務局をお願いします。
<b>事務局</b>	<p>まずは、最後の市民の皆様へ出す前の作業ということですが、計画案については素案、案、完成品と進んでいきますが、懇談会の前には素案という形でこの将来ビジョンと、基本計画を出していきたいと思っています。その素案は、たたき台という意味合いもありますので、まずはここで我々が案を出して、この審議会等で揉んでいただいたものをたたき台として、市民の皆様に出していくということで考えています。</p> <p>いろいろなご意見いただきましてありがとうございました。今後いただいた意見を参考に必要な修正等を考えていきたいと思っています。</p> <p>1点、コンパクトシティというお話ありましたが、龍ヶ崎市で多極分散型コンパクトシティを考えていく際に、4つの市街地の生活圏を設定して、それぞれのコンパクトシティを目指していく中で、4つの市街地においてそれぞれに足りない機能もありますので、その辺は市街地間で補完していくというスタンスになっております。それについては都市計画マスタープランで細かく記載があり、最上位計画の土地利用構想の中でどこまで書いてくかというのがあるのですが、この辺も全体的にわかりやすく、書いていければと思います。</p> <p>全体的に面白くないというような意見をいただいてしまったのですが、今回のように網羅的な総合計画的なものを考えていくというときには、なかなか特徴を出すというのは難しく、そのような指摘を受けがちですけれども、今回のクリエイションという将来のあるべき姿についても、我々としては萩原市長の色が出ていると思っておりまして、特徴としては今後、龍ヶ崎の課題である人口減少や少子化、そういったところに応じた形でこの4年間でこういうことに重点的に取り組んでいきますというところを事業レベルでお示しして、わかりやすい計画、親しみやすい計画にしていきたいと思っていますので、皆さんからいろんな意見いただきながら、ぜひいいものにしていきたいと思っていますので、引き続き、よろしくお願いいたします。</p>
<b>鈴木会長</b>	披田委員、お願いいたします。
<b>披田委員</b>	<p>今議論してきたこの施策の柱と施策の大綱の書きぶりの中で、もう少し分量を増やして、その中にポイントを入れたらいいと思います。例えば共生の中で外国人の問題というのは、審議会の中でも早い時期から田中委員をはじめ、他の委員の方々からもありましたが、やはり触れておりません。ここで書くべきでないというのもあるかと思いますが、入れたらいいのではないかと思います。事業レベルで新しいことをやるというのとは少し違って、この全体の中に、こんな課題についても、もう取り込みながらやろうとしているという、面白みが欠けていて、委員の皆様が言われていることについて触れられていないということです。</p>

	<p>それから、市長との意見交換会の際には、市民に素案を示すということで理解しました。実際にどのぐらいの数が集まるかというところで、難しいかもしれませんが、この素案を全員が見られるように、リゅうほーの折り込み等で事前提供していったほうが良いと思います。その場で資料を配られても見切れないでしょうし、事前に目を通して、様々な形で意見をもらえるような仕掛けをぜひ考えていただければと思います。</p>
鈴木会長	田中委員お願いします。
田中委員	<p>生涯学習と市民活動に関わることについて、先日ワークショップをやってみて感じたのは、市民の方々が随分考えておられるということが分かったのですが、一方で普段からそういったことを学んでいるわけではないので、思いつきのことが多く、行政と市民をつなぐとすれば、コミュニティセンターと市民活動センターの2つが行政と関わって、活動できればいいのではないかと思います。特にコミュニティセンターは、私も自治会長をやっている時に沢山行きましたが、そうした機能がなくなると貸館のようになってしまい、居場所にはならないと思います。そういった機能の見直しや、かつて公民館だったときには図書館とかいろいろ利用できて、いろんな人が来ておりましたが、それがなくなってしまうとか、コミュニティセンター自体の見直しと聞きますか、多様な居場所と活動の場づくりの一つの拠点として、機能の見直しをしたほうが良いかと思えます。</p> <p>それから市民活動センターもいろいろ活動されております。特にSDGsなんかで関わると、環境系のNPOとまちづくり系と福祉系がバラバラでやっておりますが、SDGsが出てきたおかげで、それぞれが関係あるという意識ができるわけで、一生懸命やっておられます。市民活動センターもてこ入れと聞きますか、SDGsの関連やまちづくりの関連で見直したほうが良いかと思えます。</p>
事務局	<p>今おっしゃっていただいたことについては、クリエイションの話にも続きますが、「ともに創る」の部分は大切だと思っております。まず集まれる場があることを分かってもらわないといけないですし、地元の住民の方でもコミュニティセンターはどこですかとおっしゃる方がまだいらっしゃいますので、そのようにならないことが第一にあって、さらにそれが解消されてくれば、コミュニティセンターの中で行政も一緒に入りながら、市民の方たちが自分たちで何か考えたり動き出したりということができるようになる場にしていかなければいけないでしょうし、そういったことを踏まえながら、最終的に計画の中には位置付けていきたいと思えます。</p>
北川委員	<p>今の市民協働の部分ですけれども、一番大事なのは活動する人材づくり、人材育成の部分だと思えます。</p> <p>小田原市では、2年がかりで活動する市民の研修をはじめ、具体的な活動の場も提供し、動き出すようなメニューを作っています。コミュニティセンターが各地域にあるので、その場を使ってそういった活動ができる人が動き出すことによって、まちが元気になっていくという仕掛けができると思うので、一步踏み込んだコミュニティセンターと人材育成という部分を考えていただきたいというのが1点と、先ほどコンパクトシティの中で、警察署や税務署は、混んでいるときは結構大変です。そうすると、他の市に出て行ってしまわないかという懸念があります。銀行も出て行ってしまいますけれども、そういったことをどこかで解決するというような、新しくまちを造り直したらそこに大きな駐車場スペースが確保できますが、それが叶わないのであれば、解決するようなことを考えていく必要があるのかなと思えます。</p>
鈴木会長	<p>それでは今の具体的なコミュニティセンター等々についても次の第2章の前期基本計画の中には盛り込まれてくるだろうと思われまますので、第2章のご説明よろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>《資料に基づき説明》</p>

<p><b>鈴木会長</b></p>	<p>まず構成をご確認ください。ご意見ございましたらお願いいたします。</p> <p>この件はよろしいでしょうか。また次回、より詳しいものが出て参りますので、その際にご検討いただければと思います。それでは本日用意している議題は以上でございます。</p> <p>その他ございますでしょうか。</p> <p>私から、1点よろしいでしょうか。これだけ本会議でも SDGs、カーボンニュートラルという意見、提案がある中、これだけの紙資料をいただいている件に関して、データ資料で構わないという方がいらっしゃいましたら、ぜひデータ資料の方に移行させていただきたいと思っております。ご検討ください。</p>
<p><b>事務局</b></p>	<p>後ほど、委員の皆様にご希望を取らせていただきたいと思います。</p>
<p><b>鈴木会長</b></p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>その他、事務局からお願いいたします。</p>
<p><b>事務局</b></p>	<p>《次回審議会開催日及び市長との意見交換会開催日について説明》</p>
<p><b>鈴木会長</b></p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>委員の皆様には、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございました。</p> <p>以上を持ちまして審議会を終了させていただきます。</p>
<p style="text-align: center;">令和 4年 月 日</p> <p style="text-align: right;">会 長 _____</p> <p style="text-align: right;">議事録署名人 _____</p> <p style="text-align: right;">議事録署名人 _____</p>	